

JISPA NEWS

輸入車整備の情報誌

〈発行所〉 一般社団法人 日本輸入車整備推進協会

TAKE FREE!

Vol.

03

2020年9月

TOPICS & VIEW

〈巻頭特別インタビュー〉

輸入車のエーミングを考える。

〔JISPA 協力会社紹介〕 昭和

整備の現場から生の声をお届け 匠 VOICE!

古き良き名車を愛でる #003

RANGE ROVER “2nd RANGE”

会員工場訪問記

オートライフ・ジャンプ

気になる自動車業界の先を詠む

自動車業界の NEWS な話題

意外と知らない? クルマの豆知識

〔JISPA 新会員紹介〕 ITO MOTORS (愛知県常滑市)

安心して
輸入車に
乗る。



輸入車修理のベストパートナー
一般社団法人 日本輸入車整備推進協会

表紙: JISPA 加盟工場 (有) 矢吹商会

〈巻頭特別インタビュー〉

輸入車のエーミングを

最近のクルマには国産車・輸入車問わず、カメラやレーダーなど、いわゆる先進安全装置が付いていることがほとんどだ。これらの装置が普及したことにより、交通事故による死者数は年々減少傾向にある。一方で、先進安全装置の機能を確実に動作させるためには、定期的な整備が必要不可欠であり、法整備を含めたアフターサービスの対応が今急ピッチで進められている。JISPA ニュース第3号では、これら先進安全装置の整備に欠かせないエーミングについて、テクニカルアドバイザーの山口氏（協和自動車）にお話を伺った。

編集部：今年の4月1日より改正道路運送車両法が施行され、特定整備認証制度が始まりました。自動車の整備・修理業界では一大事として各社対応を迫られている状況かと思いますが、輸入車整備における影響はいかがでしょうか？

山口氏：現状、特定整備認証における電子制御装置整備の対象車両は、一部の国産車に限られております。また、輸入車整備という観点でお話すると、整備においてカメラやレーダーに関わる作業は、バンパーの脱着やエラーコードが入っているときなど限られており、それほど需要が多いとは言えない状況です。つまり輸入車においては、現状ではあまり影響はないというのが正直なところですよ。

但し、今年1月に衝突被害軽減ブレーキの国内基準が策定され、輸入車に関しても2024年6月以降の新型車には装備が義務付けられることが決まっていますので、今後の対応は必要不可欠だと思います。

編集部：確かに制度の対象にはまだ入っていませんが、すでに多くの輸入車にカメラやセンサーが付属していますよね。お客様からエーミングの依頼などはないのでしょうか？



今回はフロントガラス交換後のエーミング作業を実践

山口氏：お客様からの依頼は殆どありません。そもそもエーミングが必要であることが、まだ浸透していないというのが実情ではないでしょうか。とは言え、カメラやセンサーの不具合による事故の報告も多々あるようですし、安全に直結することだけにユーザーの認知度を高めていくことは業界全体の課題だと思います。恐らく自分のクルマにどんな機能が付いているかは知っていても、それに関わるカメラやセンサーの場所までを正確に把握しているカーオーナーはあまりいないのではないのでしょうか。

例えば、ドアミラーの交換作業において、アラウンドビューモニターのカメラが付いていることを知らないお客様がいた場合、実際には配線やエーミングなどの作業が発生しているのですが、きちんと説明をしないと「なぜミラー交換をただで色々作業費がかかるの?」と納得感を得られないと思います。

編集部：では、JISPA加盟工場のお客様である輸入車オーナーは、どのようなことに注意すればよいのでしょうか？

山口氏：輸入車と国産車のエーミングに関して、異なる点は2つ「情報の入手が難しいこと」と「ツールが高額であること」です。



エーミングは見た目や体感では分からない作業なので、協和自動車では作業報告書を作成してオーナーに渡している

考える。



情報の入手が難しいことは、一般整備でも同じことですが、エーミングに関しても例に漏れず、国産車のように簡単に情報を入手することはできません。純正のツールやそれに準ずるツールを車両に繋ぎ、指示に従って進めていく必要があります。但し、そのツールは高額であり導入に慎重になる工場は少なくありません。

こういった状況を考えると、情報を入手できる環境を整えており、ツールを導入している工場、もしくは自社では行わずとも



クルマとコンピューターを繋ぎ診断を行う

エーミングを行えるパートナーとのネットワークを持っている工場に依頼することをオススメします。

JISPA加盟工場に

は、すでに輸入車のエーミングに対応している工場がいくつかございます。JISPA NEWSをご覧の輸入車ユーザーで「中古車を購入したけど大丈夫・・・」、「バンパーを交換する事故修理を過去にしているけど・・・」、「過去に自動ブレーキが誤作動した・・・」など、何か気になる点などございましたら、まずは相談してみることが大切です。

編集部：ありがとうございました。

〈取材協力〉

ALEX KYOWA
協和自動車株式会社

所在地：東京都中央区東日本橋1-5-5
URL：http://www.alex-kyowa.co.jp/



JISPA 協力会社紹介

株式会社 昭和

所在地：名古屋市昭和区川名町1-4
URL：http://www.turbo110.com

今年度よりJISPAの協力会社に株式会社昭和が名を連ねることとなった。同社は1973年の創業当時からディーゼル燃料噴射システムとターボチャージャーを専門に、修理・リビルトを行っており、ギャレットターボ社やボッシュ社など世界各国のメーカーの正規認定工場となっている。

同社の川上社長に、JISPAと連携することでどのような効果が期待できるかについてお話を伺うと「欧州においてはCO₂規制の影響でダウンサイジングターボが主流になっている。輸入車整備において今後需要が見込まれる中で、海外の部品メーカーから直接、そして新品だけでなくリビルト品も提供できることは、部品単価を下げるとユーザーの利便性に繋がるのではと考えております」と回答を頂いた。また、「これまで“輸入製品のためリビルト品が見つから

SHOWA
TURBOCHARGER & FUEL INJECTION

ない”“年式が古く部品がない”などと諦めていたケースでもご相談に乗れるケースがあると思います」と頼もしいお言葉を頂いた。

海外に広くネットワークを持つ同社と輸入車整備に長けたJISPA工場が手を取り合うことで、輸入車ユーザーに今後益々“安心して輸入車に乗れる”環境を提供していきたい。



整備の現場から生の声をお届け



VOICE!

平均車齢が8～12年と、輸入車を長く大切に乗り続けるオーナー達から、整備や修理を安心して任せられる工場を求める声が広がっている。このコーナーでは、JISPA 会員工場に入庫した整備事例の中から、輸入車オーナーにとっても、興味深く目からウロコな“生の声”をお届けしよう。

整備事例#005

BMW635CSi (E24)

お宝級のクルマを“預けて頂ける喜び”



1987年登録のBMW635CSiが入庫しました。まさにお宝級のクルマですね。ツードアクーペの形状がとても美しいこのE24型は、3.0CSクーペの後継モデルとして1976年にデビューし1989年まで製造され、「世界一美しいクーペ」とも呼ばれました。この車両は、長くお付き合いいただいているお客様のもので、今回は車検での入庫をいただいており、各種点検作業と併せて、エンジンオイルラインのフラッシング、シフトポジションパネルの交換、エアコンガスの補充を行いました。

オーナー様がしっかりと定期メンテナンスをされている車両なので、30年以上前のクルマとはとても思えないほどのコンディションを

保っていますね。いかにこのクルマを大事に扱っているかが窺い知れます。

少し前の車のパーツでもメーカー欠品となってしまう日本車と違って、欧州車は今でもちゃんとパーツが入手できるので安心です。やはりヨーロッパはクルマ文化が根付いた自動車先進国なんですね。こういったクルマを信頼して預けていただけるのは、自動車修理工場として、とてもシアワセなことです（涙）。

今回は、JISPAニュースをご覧頂いたオーナー様から「私のクルマも是非載せてください」とありがたいお言葉を頂きましたので、掲載させてもらいました。今後も、オーナー様が、愛車と永く過ごせますよう、しっかりとメンテナンスいたしますね。



内装もオリジナルコンディションが保たれる



細かなパーツまでしっかりと整備されている



オーナー様と記念撮影

玉野自動車（神奈川県横浜市）

整備事例#006

FIAT 500

FIAT500オーナーは要チェック!



半ドア 警告灯が点灯、リアゲートスイッチが作動しない、ライセンスランプが点かない、リアウォッシャーが出ない、リアワイパーが動かない等々…。意外と良くあるトラブルをチンクオーナーに紹介しますね。

まずは、「BOOT OPEN」「リアゲートが開いています」というサインが出てますこの車両、ドアが閉まっているのに半ドア警告? どうやらリアゲートに配線されている電線が、ゲート開閉を繰り返すうちに断線してしまったのが原因のようです。素材の問題もしくは配線の角度や取り付け方にも問題があるのでしょうか? イタ車だけに疑ってしまいそうですが…。



ここは部分的に長さに余裕をもたせてしっかりと配線し直します。工場出荷時と同じ作業はせず、配線にも工夫を加える事で、耐久性がグンと上がったりする事もあります。とにかくココが断線するケースが多いので皆さんご注意ください。

次に気を付けたいポイントが、ショックアブソーバーを固定する「皿」。ここに雨水が溜まってサビが出やすいので要注意! どうも運転席側に雨水が溜まりやすい傾向にあるようです。この部分はゴム製のアッパーマウントの経年劣化で交換することもあります、最悪の場合ショックアブソーバーごと交換となってしまうチンクのウイークポイントのひとつです。



配線を工夫して耐久性の向上に



画像の茶色くなっている部分が皿部分



高年式型から樹脂力バーが装着されたが、外してみるとサビが!

松原オート（京都市右京区）

古き良き 名車を愛る

WE LOVES VINTAGE CAR !

#003

RANGE ROVER “2nd RANGE”1995-2002

巷では総アルミモノコックになり飛躍的に走行性能が向上した現行レンジローバーをよく見かけるが、その一方で、今となってはサイズも価格も手頃で、しかも味わいのある「セカンド・レンジ」に注目が集まりつつあるようで、実際JISPA会員工場にも少なからず入庫があるようだ。そこで今回は、第三弾に相応しいクルマとして、英国王室御用達のSUVの王者「レンジローバー」を愛でる。

〈取材協力：松原オート〉

ラグジュアリー SUVとして知られる英国「レンジローバー」は、

言わずと知れた世界的名車。その上質な乗り心地は「魔法の絨毯」、あるいは「砂漠のロールス・ロイス」と評されるほど。通称「クラシックレンジ」と呼ばれる初代モデルは1970年にデビューし、1996年までの長きに渡り生産された。

開発チームのリーダーは、後に天才エンジニアと呼ばれるチャールズ・スペンサー・キング。「すべての道路を快適に走る四輪駆動車」をコンセプトに、レンジローバーは誕生した。

そしてここに紹介する2代目が登場したのは1995年のこと。通称「セカンドレンジ」、もしくは開発コードをとって「P38a」、型式より「LPレンジ」とも呼ばれるこのモデルは、従来の丸型に代わる角型のヘッドランプデザインが採用され、さらに高級感を増した。また、カタログモデルは全て4ドアワゴンでホイールベースも1種類のみとなった。ラダーフレームと前後リジッドアクスルの構成は継承されたが、ボディーは一般的なスポット溶接構造となった。ガソリンエンジンは初代の改良型で、アルミブロックOHVのローバー・V8エンジンで、4.0Lと4.6Lの2機種であるが、ディーゼルエンジンは直列6気筒 2.5L ターボディーゼルのBMW・M51エンジンへ変更となった。オンロード性能も重視され、車内の防音や緩衝装置も大



初代から24年ぶりにフルモデルチェンジを果たしたセカンドレンジ。見た目こそ大きく変わったものの、コンセプトはブレずに初代をブラッシュアップしたもの



エクステリアデザインは、現行モデルにもアイデンティティが受け継がれている



幅に改善されるなど、先代よりさらに高級路線が強化された。

当時、高級SUVの元祖であるレンジローバーが、24年ぶりに2代目にフルモデルチェンジを果た

し大きな話題となったが、見た目こそ大きく変わったものの、コンセプトはそのままだに、初代を確実にブラッシュアップしたものであった。

注目すべきは、クラシックレンジの末期モデルに導入された車高調整機能付きエアサスペンションが標準装備されたほか、各部の機能に多くの電子部品が使われるようになったのが、このセカンドレンジの大きな特徴でもあった。

ところが、このエアサスをはじめとした電子部品類が、皮肉にもセカンドレンジのウィークポイントでもあった。レンジ好きであれば「レンジローバーはエアサスが壊れやすい」などと聞いたことがあるだろうが、実際トラブルを嫌い、スプリングサスペンションにコンバートする車両も少なくないという。

ちなみに、当時のローバーはBMW傘下にあったが、BMWのノウハウがレンジローバーに生かされるのは、2000年に発売されたマイナーチェンジ後の後期型から。オルタネーターや電装系も改良が加えられ品質が大幅に向上しているという。

今、程度の良いセカンドレンジを探すのは難しくなっているが、狙うのであれば2000年以降の後期型をオススメしたい。



エアサスとアブソーバー

足廻りのリフレッシュ作業。フロントナックルの上下ボールジョイント交換は断るショップもある程の重作業だ



電子制御がふんだんに使われエアサスペンションを全車に設定

オートライフ・ジャンプ

〔SHOP DATA〕

株式会社ジャンプ
大阪府泉大津市我孫子 1-10-17
カフェ&バー「MINI GATE」併設

父が築いた礎に注がれる息子の“想い” 動画・SNS 活用で輸入車整備の魅力広がる

インターネットが普及してから20年以上が経ち、5Gなど次世代規格が話題となる今日でも、アナログな空気が色濃く残る現場の1つが整備工場だ。「街のクルマ屋の仕事ぶりを知ってもらいたい」。その想いが今、1軒のショップからオンラインを通じて全国のカーオーナーに駆け巡り始めている。

大阪府泉大津市にあるオートライフジャンプは、元々国産車ディーラーで整備、営業を務めた小門茂樹代表が自宅敷地内で整備業を始め1998年に創業。輸入車整備のルーツについて「格安車検が流行し、大手ショップへの対抗策を模索する中で、同業者へ『輸入車も整備している』と口を滑らせたのがきっかけ」と当時を振り返る。その後、業界団体や部品・機器提供メーカー、個人的なネットワークをも活用し、独自に輸入車の整備ノウハウを築き上げてその言葉を有言実行。現在では、スキャンツールを用いた正確な故障診断が必要な高年式車から、個体ごとに部品の加工・組みに高い精度が求められる旧車・低年式車まで幅広いメーカー・車種の整備を手掛ける。その高い整備品質のみならず、「お客様とショップの関係でも対面するのは人と人。クルマを直すだけでなく、また行きたいと思ってもらえるように心がけている」（小門代表）という顧客対応へのこだわりは、地域はもとより遠方からの来店客含め、多くの輸入車ユーザーに支持されている。

街の輸入車整備の品質を届ける

そんな同社が、目下注力するのがウェブを活用した情報発信だ。舵を取るのは、BMWディーラーでの整備経験（BMWシニアテクニシャン取得）をもつ息子の禎幸氏。昨年に入社し、将来の事業継承も見据える中で同氏が直面したのが、「自分より技能もキャリアも年齢も上の先輩整備士がついてきてくれるか」という大きな重圧だった。そこでデジタルネイティブ世代らしくオンラインマーケティングに挑戦



「父が築いた基礎があったからこそ今の環境」と話し、YouTubeでの発信などに精力的に取り組む禎幸氏。地域特性や人口動向、将来の自動車の在り方など、様々な観点からマーケティングを考えているという



カフェから見える2台の英国車（1974年式MG・MGB（Mark3）と1967年式オースチン・ミニ・カントリーマン（Mk-1）は代表の愛車。クラシックラリーなどにも参戦するという。工場の奥にはレストア中のボルシェ・911（930）の姿も



技術情報・部品が取得しづらい輸入車整備において、個人的なネットワークにも助けられたという小門代表。JISPAなども活用した禎幸氏へのノウハウ継承に期待を寄せつつ、根詰める禎幸氏を心配する素振りも

し、入社早々に自社ホームページの改修とMEO（※グーグルが提供するマップエンジンオブティマイゼーションの略。地図検索で自社を上位表示させる施策）対策に着手。最近ではYouTube動画の配信も開始した。動画では、「車屋の選び方」や「ディーラーと街の車屋の比較」など、必ずしも同社に入庫しない遠方ユーザーにとっても参考となる情報を発信しており、その理由について禎幸氏は、「ブランド力があるディーラーから移り、街のショップが高い品質でしっかり整備していることがユーザーの皆様が届いていないことを悔しく思い、とにかくそれを知ってもらいたかった」と胸の内を語る。

当初こそ、仕事終わりや休みを縫って行っていた取り組みだが、小門代表も、「元々ウェブサイト制作した経験からその重要性は分かっていたつもり。息子の取り組みもむしろお願いしたぐらいだけど、まさかYouTuberになるとは思わなかった（笑）」と評価。元々自社サイトに一定のアクセス数がありながらも問い合わせや入庫に繋がっていなかったが、施工実績やスタッフなどショップの中身を見えるようにしたことで女性客などを中心に着実に問い合わせや来店が増加。今では他の先輩スタッフも禎幸氏の各種マーケティング活動を頼りにしているようだ。

新たな取り組みが奏功しつつある今、増えた来店客への対応の一環で同社は7月に新たにカフェもオープンした。待合室を兼ねたスペースだが、カフェ形態での事業資格も取得し、窓の向こうに2台の英国車を覗かせるオールド・ブリティッシュな空間は単なる待合室の域を超える。「経験のないカフェ運営をどうするか、息子と議論を重ねている」と笑みをこぼす小門代表。SNSや動画など現代流マーケティングを辿った先には、親子の絆が描き出した“古き良き英国”を彷彿とさせるアナログな世界が広がっている。



オートライフ・ジャンプのYouTubeチャンネル



自動ブレーキ装着車を修理する際に必要なケースがある各種カメラ・センサー類の機能調整「エーミング」。同社でも各メーカーの対応に乗り出している



気になる自動車業界の先を詠む

自動車業界の



な話題

Automotive industry News

今回のテーマ▶

コロナ禍のイベント開催「オートモビルカOUNシル2020」

世界のヘリテージカーが会する展示会、

「AUTOMOBILE COUNCIL 2020」（オートモビルカOUNシル）が、7月31日から8月2日の会期で、千葉市・幕張メッセにおいて開催された。新型コロナ感染拡大の影響を受けて当初予定の4月から延期を重ねながらも、厳重な感染対策のもと「自動車文化を後世に伝える」ための空間をヘリテージカーが演出した。

感染防止には不可欠のいわゆる“3密”を回避するため、同時入場数を特別内覧日は3,000名に、Public Dayは5,000名に制限したり、感染を懸念して来場を控えざるを得ないヘリテージカー・ファンに向けて、実際の展示会と並行してオンラインでの有料展示会を開催するなど、コロナ禍における展示会の新たな方向性を示す会期となった。

来場者数こそコロナの影響で多くはなかったものの、今年も会場にはメーカー・インポーター・ヘリテージカー販売店・オーナーズクラブなどが用意したスペシャルなクルマが立ち並んだ。

今年のテーマ展示は“60年代ル・マン・カーの凄みと美しさ”、アルピーヌM63（1963年）とイソ・グリフォA3/C（1966年）が展

示された。

また、世界限定25台のクラシックミニ「デビッドブラウン・ミニ・リマスタード」が日本初披露されるなど、マニアにとって見所満載であった。



ミーティングやレースなどの各種イベントが相次いで中止となるなか、ストレスを溜めているJISPAニュースをご覧になっているエンスージアストにとっては、今後の希望に繋がる明るいニュースだったのではなかろうか。



今回のテーマ▶

コロナの影響で...

新型コロナウイルスの影響で、自動車業界

もまた例に漏れず大打撃を受けている。一般社団法人日本自動車販売協会連合会（自販連）の発表によると、2020年1～6月における新車販売台数（軽自動車を除く）は、普通乗用車と小型乗用車の合計が119万8424台（前年比80.1%）と、大幅に減少している。

また、警察庁のまとめでは、2020年1～6月に全国で発生した交通事故は前年同期比22.3%減の14万6043件だったことが判明しており、事故車修理やロードサービスの出動にも影響が出ている。もちろん事故が少ないことは良いことなのだが、それを生



業としている方々にとっては頭の痛い問題である。

一方で、緊急事態宣言のよる外出自粛によって上向きに推移した分野もあった。それが

洗車用品やヘッドライト研磨用品といったケミカル用品販売だ。

自動車用品小売業協会の2020年5月の発表資料によれば、用品全体の売上が前年同期比92.9%に



対して、ケミカル用品部門は119.2%と大幅に増加している。ステイホーム期間中の余暇を利用して「愛車をキレイにしたい」というニーズが生まれた結果だと考えられる。

コロナウイルスの収束にはもうしばらく時間が掛かりそうだが、この機会に洗車やコーティングといった車をキレイにすることに時間を割いてみてはいかがだろうか。どちらも凝れば凝るほどハマってしまう奥深い魅力がきっとあるはずだ。

ドライブするだけが愛車とのコミュニケーション手段でなく、実際に愛車に触れてみる事も大切な事。このコロナ禍に、愛車との信頼関係を深めるための時間を割いてみることをお勧めしたい。

意外と知らない?

クルマの豆知識



愛車と長くつきあう輸入車オーナーのための注意点

タイミングベルトの交換...その前に

タイミングベルトとは、エンジン内部のピストンとバルブのタイミングをとるためのベルトで、タイミングベルトはエンジンを正しく機能させるために非常に重要な役割を果たしている重要なパーツです。

最近の新しいエンジンには、ゴムベルトではなく「タイミングチェーン」と呼ばれる金属式のものが出回り、交換を必要としなくなったものもありますが、まだまだタイミングベルトの車は多く存在し、ボルボやアルファロメオ、フェラーリなど、現行モデルにもタイミングベルトを搭載したものは多くあります。

タイミングベルトはゴムでできているため、経年劣化し走行距離が少なくても切

れてしまう事も実際あります。

一般的にタイミングベルトの交換時期は、例えば国産車であれば10万キロで交換時期とされていますが、外車ではフォルクスワーゲンやボルボで8万キロ、フェラーリの場合は2万キロとも言われており、メーカーごとにある程度目安となる交換時期が決まっているようです。

もしもタイミングベルトが切れてしまった場合、バルブがピストンとぶつかりバルブ自体が曲がってしまったり、シリンダーヘッドを丸ごと交換しなければならなくなったりと、高額な修理へと繋がるリスクがあります。

タイミングベルトが切れる前には、プーリー&テンショナーにガタがきて、異音を



異音に気づいたら早めの入庫を心掛けたい

発生するので、タイミングベルト断裂などのトラブルを未然に回避できますので、点検の際などに整備工場に相談してみることをお勧めします。



タイミングベルトが切れてピストンとぶつかり曲がってしまったバルブ

〈 JISPA 新会員紹介 〉

JISPA は、輸入車の整備を行える「国産車も整備する街の整備工場ネットワーク」創設を目指します。このコーナーでは、JISPA の理念に賛同した新たな加盟店を紹介致します。



愛知県西部に位置する常滑市に、ITO MOTORSはあります。昭和27年先代が認証工場を設立、1年前に資格取得し指定工場化を果たしました。現在は、代表夫婦、代表弟2名、妹1名、社員1名の6名体制で運営する少数精鋭の組織です。

工場を構える地域は、2005年に中部国際空港（セントレア）がオープンしたことで、鉄道及び道路の整備が行われ交通アクセスの利便性が向上。愛知県と常滑市の合同プロジェクト「中部臨空都市」の開発に伴い、近隣にもマ

ITO MOTORS (2019年8月27日加盟)

所在地：愛知県常滑市神明町1-34 URL: <http://itomotors.lolipop.jp>

ンションが建設され、若い客層が増えてきている地域です。幹線道路に面した受付フロント及び完成検査ラインを有した本社工場と、100mほど離れた場所に整備用工場で対応しています。どちらも5Sが行き届いており清潔感に溢れる工場です。全ての依頼を受け入れるとの企業方針で、自転車から輸入車まで、地域特性を考慮した地域密着型の経営を心掛けています。

現在、輸入車整備は、近隣の中古販売車の輸入車整備で月間7台程度の入庫、さらにアフ

ターサービスを希望する一般顧客からの入庫が徐々に増えてきている状態です。「テクニカル・アドバイザー制度は本当に助かっています。出来る限り故障探求を済ませたうえで、確実な自信が持てない場合や、行き詰まった時に活用させてもらっています」と、JISPAの制度を評価頂きました。

JISPAのコンセプトである街のカードクターとして、国産車から輸入車、はたまた自転車に至るまで、安心して任せられるアットホームなプロ集団の会員工場です。



輸入車修理のベストパートナー

一般社団法人 日本輸入車整備推進協会

一般社団法人 日本輸入車整備協会 (JISPA) は、国産車を整備している「街の整備工場」で、併せて輸入車を整備する独立系整備工場 (Independent auto repair shop) の全国ネットワークです。

電子診断のデータに基づき、車輛の環境性能・安全性能・乗り心地を自動車メーカーの工場出荷時 (新車) の状態に戻す新時代の診断整備を目指します。現在全国100社のネットワーク構築に向けて会員を募集しております。詳しくは、右記ホームページに記載の入会案内をご覧の上、事務局までお問い合わせ下さい。

JISPA ニュースに関する
ご意見・ご感想・ご要望などをお寄せください



JISPA ニュース編集部では、今後ともコンテンツの充実に向けて参ります。皆様からの多様なご意見・ご要望を募集しております。下記メールアドレスまで、お寄せ下さい。

JISPA事務局 ▶ jispago@gmail.com

<http://jispa.net>